



① 日本国特許庁
公開特許公報

特 許 願

(2000円)

昭和47年10月6日

特許庁長官 三宅幸夫 殿

1. 発明の名称

肥料

2. 発明者

特許出願人に同じ

3. 特許出願人

兵庫県西宮市江上町17番地

貴多金三郎

4. 代理人

47 100919

〒540 大阪市東区内本町橋詰町30番地(941-0702~0704)

(5922) 弁理士 蔦田 璋子

ほか1名

5. 添付書類の目録

- | | |
|-----------------|-------------|
| (1) 明細書 1 通 | (2) 図面 1 通 |
| (3) 願書副本 1 通 | (4) 委任状 1 通 |
| (5) 出願審査請求書 1 通 | |

5字削除

明 細 書

1. 発明の名称 肥料

2. 特許請求の範囲

肥料となり得る成分を活性炭素に吸着させたことを特徴とする肥料。

3. 発明の詳細な説明

本発明は施肥効果の優れた肥料を提供せんとしたものである。

一般に肥料はその施肥効果を長く持続するものが少なく、そのため植物育成上例えば開花時期を長く保つことは非常に困難視されていた。

そこで本発明は施肥効果を長く持続させるのに好適なものを得るものであり、その内容を具体的に説明すると、窒素、磷酸、加里の各成分を水に溶解させ、その中に微粒の活性炭素を投入して、上記成分を活性炭素に吸着させた後、腐敗をさけるために脱水または乾燥したものを

肥料として構成している。

なお肥料成分の吸着は上記の窒素、磷酸、加里その他植物の育成に必要な成分を複合的または単体で使用する。

また上記活性炭素は清酒醸造過程で使用された後の活性炭素となるものを使用するのが好適であり、この場合の活性炭素は醸造過程で蛋白質その他施肥効果を向上させる成分を既に包含しており、しかも通常廃棄されると公害対象物となるものを利用するのでコスト的にも非常に好都合なものである。

上記のごとく肥料となり得る成分を活性炭素に吸着させた本発明の肥料は例えば成分中、速効性の窒素成分も活性炭素に吸着された状態では一度に成分が溶出せず、徐々に平均して溶出するため植物の肥料吸収力と平行してきわめて持続性の良好かつ有効な施肥効果をあげ得る。

土壌に対し施肥を行なう場合には散布方法で

①特開昭 49-54151

④公開日 昭49.(1974) 5.25

②特願昭 47-100919

②出願日 昭47.(1972) 10.6

審査請求 有 (全2頁)

庁内整理番号

⑤日本分類

734949

4A2

行なえばよく、活性炭素の粒子と土壌の混和により通気性のある土壌改良としての効果が高い。

次に本発明による肥料の施肥効果を従来の肥料使用による施肥効果とを朝顔栽培の場合につき対比すると栽培段階毎に以下のごとき結果が得られた。但し葉付時に第一次施肥、繁茂時に第二次施肥が行なわれ、他の条件（例えば日当たり、通風性、給水等の条件）は同一にしている。

- | | |
|---------------|---|
| 1. 種まき
発芽) | 従来も本発明の場合も施肥前であつて、変りなし。 |
| 2. 葉付 | 従来の場合濃緑であるのに対し本発明は少し色が淡く葉枚数は従来と殆んど変りなし。 |
| 3. 繁茂 | 従来のもものは蕾が小さく、さほど多くないのに対し、本発明は蕾が大きくしかも多い。 |
| 4. 開花 | 従来のもものが大中小合わせ25個位であるのに対し、本発明は大きなものが30個以上開花した。 |
| 5. 開花持続
時期 | 従来のもものは短期であるが本発明は長期に持続できた。 |

6. 前記以外の代理人

大阪市東区内本町、橋詰町30番地

(7515) 弁理士 亀 井 弘 勝

以上の結果よりも明らかなとおり、本発明の肥料は活性炭素のもつ他成分吸着性の大きな効果によつて成分を徐々に平均化して溶出することができ、その施肥効果を長く持続できる大きな利点があり、従来の肥料にない優れた性質のものである。

特許出願人 貴 多 金 三 郎

代 理 人 鳥 田 璋 子
ほか1名

(3) 49-54151

A fertilizer containing activated charcoal adsorbed with potential fertilizer component(s).

Accordingly, the present invention aims to obtain a fertilizer that is suitable for maintaining the fertilization effect for a long time. To describe specifically, the fertilizer is constituted by dissolving components such as nitrogen, phosphoric acid and potassium into water, putting fine activated charcoal therein, making the activated charcoal adsorb the components, and then dehydrating or drying the product in order to avoid decomposition.